

2026年2月10日

課題名：リバー型人工肩関節置換術におけるベースプレート設置高位が関節窩骨密度およびスクリュー長に及ぼす影響

An anatomic analysis of screw length and hounsfield units  
at different glenoid heights

◆研究の目的と概要◆

本研究では、リバー型人工肩関節置換術におけるグレンオイドベースプレートの設置高位の違いが、関節窩内の骨密度およびセンタースクリューの固定長に及ぼす影響を明らかにすることを目的としています。関節窩高位ごとの解剖学的特性を評価することで、術後の安定した機能成績に寄与する知見を提供することを目指します。

◆対象となる患者さん◆

2021年1月から、2025年7月までの間に、リバー型人工肩関節術を施行した方

◆研究に使用される情報・試料◆

本研究は術前CT画像所見を利用します また、性別、年齢、身長、体重、手術側を使用します。

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2025年3月4日

◆研究方法◆

既存の診療記録および術前CT画像を用いた後ろ向き観察研究です。研究対象者は研究期間内に当院でリバー型人工肩関節置換術を施行された症例です。CTを用いて、初期固定性に関与するとされる平均骨密度(Hounsfield unit: HU)を測定するとともに、6.5mm径センターポストおよび4.0mm径スクリューを想定した刺入可能最大長を評価しました。

- 
- \* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
  - \* 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

整形外科 研究責任者 相江 直哉

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法  
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明